

錦鯉の養魚池・庭園池の除藻剤

トルモアツプ[®]



特長

- 1 低魚毒性の除藻剤で広範囲の緑藻類、藍藻類に効果があります。
- 2 藻類の発生前に使用すると予防効果もあります。
- 3 すでに発生している藻には、使用后2~3日ですぐれた除藻効果を示します。
- 4 トルモアツプを散布した池の水を、植木や鉢植などに散布しても安全です。
- 5 長期間の効果があり、養魚池・庭池の管理が省力化され大変経済的です。

池のモをとるトルモアップ

☆主な適用と使用量

適用池	適用藻類	使用量
錦鯉の養魚池 及び庭園池	アオミドロ、アミミドロなどの青水 となる緑藻類及び藍藻類	池水量5トンに対し 1袋(3グラム)

☆使い方

- 1.) 一般に藻の発生期間中1ヵ月2～3回散布しますと藻の発生を防止します。
- 2.) 散布する池の水量に見合ったトルモアップをバケツなどの容器で水によくかき回してから、ジョロまたは散布器で池の全面にむらなく散布してください。
- 3.) トルモアップ1袋は3グラムで水量5トン分です。
- 4.) 水量の算出法の例は次の通りです。
水深50センチ(0.5メートル)、縦2メートル、横5メートルの場合。
 $0.5 \times 2 \times 5 = 5$ トン(トルモアップ1袋分)

☆使用上の注意

- 1.) トルモアップは天気の良い日の午前中に使用してください。天気が悪いときは十分な除藻効果が現れないことがあります。
- 2.) 春先などの水温が低いときや、漏水、湧水の激しい池では十分な除藻効果が現れないことがあります。
- 3.) 散布後少なくとも1日間は注水をひかえてください。
- 4.) 広い池で使用するときは、トルモアップが池全面にむらなく行きわたるよう、散布には特に注意してください。
- 5.) 藻類が大量に発生している池の場合、藻の枯死にともない酸素不足になったり、水質が悪化することがありますので、藻が枯死したあとは池水の半量程度の換水や注水によって、死んだ藻類を流し出してください。
- 6.) 一度水にとかした溶液の余ったものは、次回に使用しないでください。
- 7.) 本品はなるべく湿気を避けて、室温にて保存してください。
- 8.) 子供の手の届かないところに保管してください。

☆錦鯉に対するトルモアップの安全性

- 1.) 鯉(平均体重1.5g)に対する48時間薬浴の毒性試験データ

[名古屋大学農学部 木村健一、田村 保]

水温	魚が死ななかった濃度	50%の魚が死んだ濃度	100%の魚が死んだ濃度
15°C	40g*/トン水	56g/トン水	128g/トン水
30°C	30g/トン水	52g/トン水	72g/トン水

※トルモアップの量

- 2.) 錦鯉(平均体重10.8g)に対する30日間連続薬浴の毒性試験データ

(広島大学水畜産学部 笠原正五郎)

水温	トルモの濃度	生存率
22°C	6g/トン水*	100%
	18g/トン水	40%

※トルモアップの量

トルモアップを実際に使用する量は0.6g/トン水(3g/5トン水)です。したがって上の試験データから明らかなように、所定の濃度(0.6g/トン水)で使用される限り、トルモアップが錦鯉に害を与える心配はありません。

☆包装

(3g×2)×5
600g